

「総合的な学習の時間」に関するアンケート調査結果

調査対象：教職5年目、10年目、20年目研修受講者（小学校 243名 中学校 219名）

調査日：平成16年11月4日、12月5日、平成17年1月7日

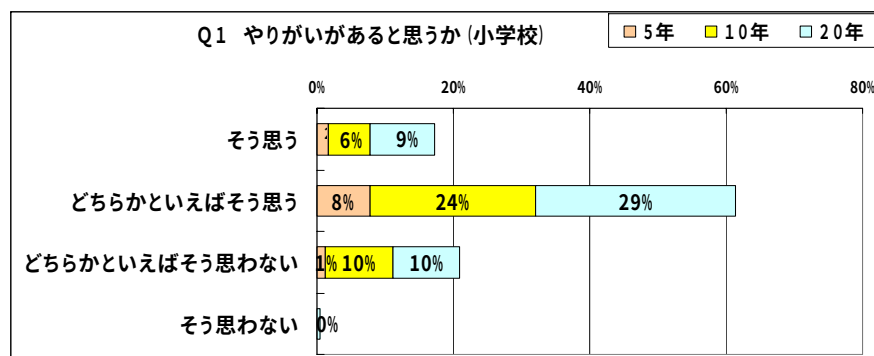
1 総合的な学習の時間に対する意識

小学校では8割、中学校では5割の教員が、総合的な学習の時間の指導はやりがいがあると思っている。

Q1 あなたは、「総合的な学習の時間」の指導を「やりがいがある」と思いますか。

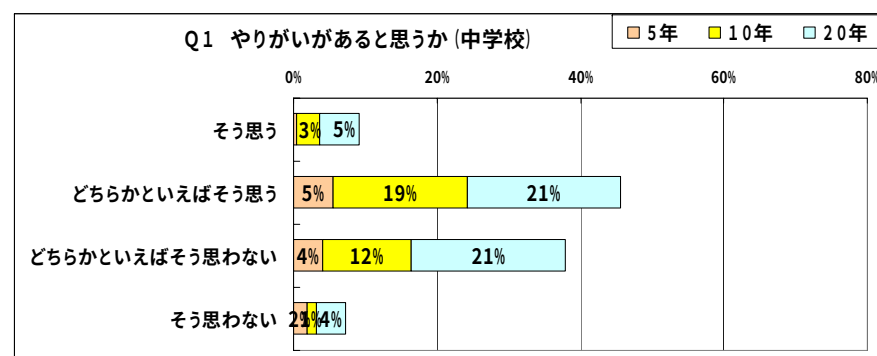
○「総合的な学習の時間の指導はやりがいがあると思うか」という問いに対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた（肯定的な）回答の割合は、小学校では、約8割、中学校では約5割である。

・教職経験年数別にみると、中学校の教職20年目研修受講者では、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」という回答が他の受講者に比べて多く、約半数の教員が否定的な回答をしている。



小学校

Q1		5年	10年	20年	計
ア	そう思う	4	15	23	42
イ	どちらかといえばそう思う	19	59	71	149
ウ	どちらかといえばそう思わない	3	24	24	51
エ	そう思わない	0	0	1	1
計		26	98	119	243



中学校

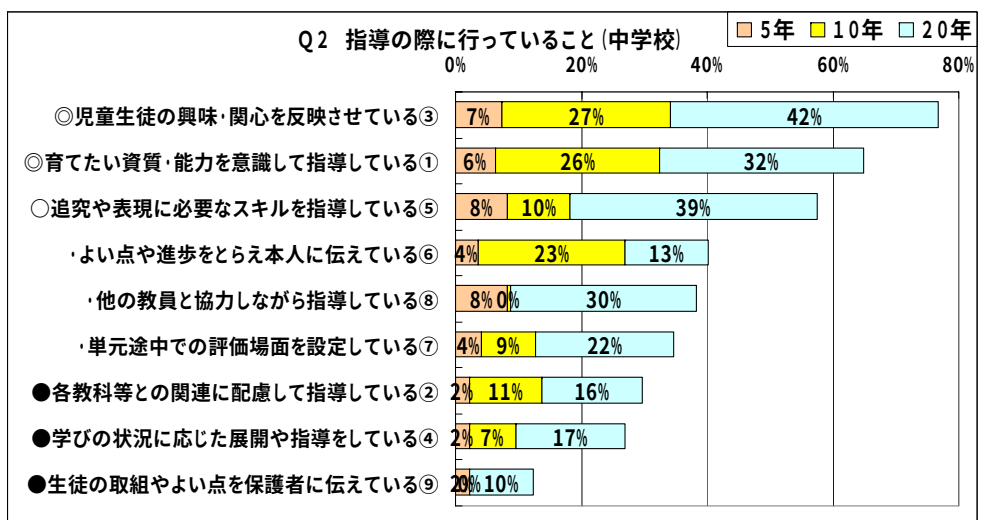
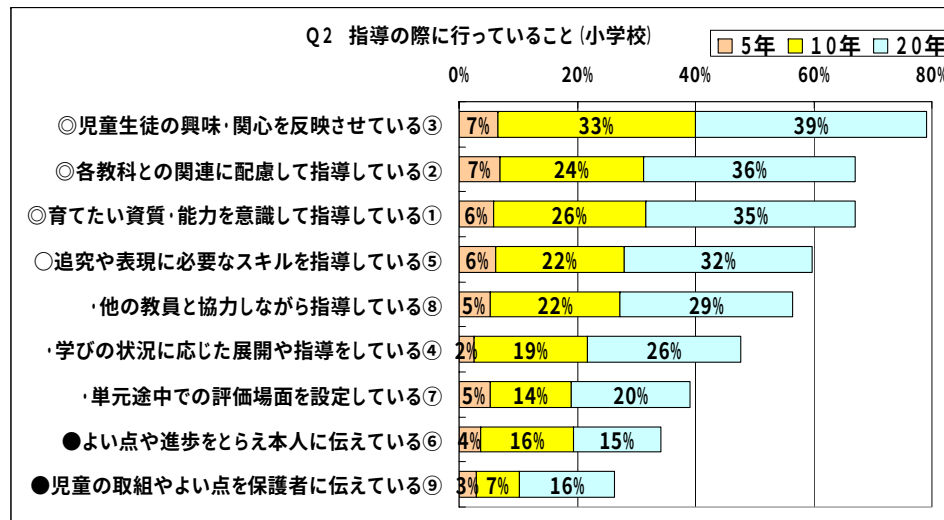
Q1		5年	10年	20年	計
ア	そう思う	1	7	12	20
イ	どちらかといえばそう思う	12	41	47	100
ウ	どちらかといえばそう思わない	9	27	47	83
エ	そう思わない	4	3	9	16
計		26	78	115	219

2 「総合的な学習の時間」における指導

興味・関心を学習に反映させるとともに、育てたい資質や能力を意識して指導している。
評価に関する取組は十分ではない。

約8割の教員が、児童生徒の興味・関心をテーマや学習に反映させている。また、育てたい資質・能力を意識しながら、追究や表現に必要なスキルを指導している。しかし、児童生徒の取組やよい点を本人や保護者に伝えたり、指導に生かしたりする取組については十分ではない。

Q2 あなたは、「総合的な学習の時間」を指導する際に、以下のことを行っていますか。(複数回答)



*①～⑨は、各設問における選択肢の番号

回答数 243

Q2 (1) 小学校

Q2 指導の際に行っていること(小学校)	教職経験			※指導のやりがい(Q1) 別										
	5年	10年	20年計	5年	10年	20年計	肯定	否定	計*	肯定	否定	計*		
3 ◎児童生徒の興味・関心を反映させている③	7%	33%	39%	79%	16	81	95	192	58%	15%	73%	141	37	178
2 ◎各教科との関連に配慮して指導している②	7%	24%	36%	67%	17	59	87	163	53%	11%	64%	128	27	155
1 ◎育てたい資質・能力を意識して指導している①	6%	26%	35%	67%	14	63	86	163	52%	11%	63%	127	26	153
5 ○追究や表現に必要なスキルを指導している⑤	6%	22%	32%	60%	15	53	77	145	47%	8%	56%	115	20	135
8 ・他の教員と協力しながら指導している⑧	5%	22%	29%	56%	13	53	71	137	42%	10%	52%	101	25	126
4 ・学びの状況に応じた展開や指導をしている④	2%	19%	26%	48%	6	47	63	116	39%	6%	45%	94	15	109
7 ・単元途中での評価場面を設定している⑦	5%	14%	20%	39%	13	33	49	95	30%	7%	37%	73	17	90
6 ●よい点や進歩をとらえ本人に伝えている⑥	4%	16%	15%	34%	9	38	36	83	26%	5%	31%	63	13	76
9 ●児童の取組やよい点を保護者に伝えている⑨	3%	7%	16%	26%	7	18	39	64	20%	4%	24%	49	10	59
10 その他	0%	0%	2%	3%	1	1	6	8	2%	1%	3%	6	2	8

※ *指導のやりがい(Q1)別の値は、Q1での無回答を除く。

回答数 219

Q2 (1) 中学校

Q2 指導(中学校)	教職経験			*指導のやりがい(Q1)別										
	5年	10年	20年計	5年	10年	20年計	肯定	否定	計*					
3 ◎児童生徒の興味・関心を反映させている③	7%	27%	42%	77%	16	59	93	168	43%	29%	73%	95	64	159
1 ◎育てたい資質・能力を意識して指導している①	6%	26%	32%	65%	14	57	71	142	41%	32%	72%	89	69	158
5 ○追究や表現に必要なスキルを指導している⑤	8%	10%	39%	58%	18	22	86	126	35%	25%	60%	77	55	132
6 ・よい点や進歩をとらえ本人に伝えている⑥	4%	23%	13%	40%	8	51	29	88	37%	17%	54%	82	37	119
8 ・他の教員と協力しながら指導している⑧	8%	0%	30%	38%	18	1	65	84	19%	15%	34%	42	33	75
7 ・単元途中での評価場面を設定している⑦	4%	9%	22%	35%	9	19	48	76	20%	10%	30%	43	22	65
2 ●各教科等との関連に配慮して指導している②	2%	11%	16%	30%	5	25	35	65	16%	9%	24%	34	19	53
4 ●学びの状況に応じた展開や指導をしている④	2%	7%	17%	27%	5	16	38	59	14%	10%	24%	31	21	52
9 ●生徒の取組やよい点を保護者に伝えている⑨	2%	0%	10%	12%	5	0	22	27	13%	7%	21%	29	16	45
10 その他	0%	0%	0%	1%	1	1	0	2	0%	0%	0%	1	0	1
									55%	45%	100%	120	99	219

Q2 「総合的な学習の時間」における指導

- 「児童生徒の興味・関心を反映させている③」が最も多く、小・中学校ともに約8割の教員が回答している。「育てたい資質・能力を意識して指導している①」、「追究や表現に必要なスキルを指導している」の回答も多い。(6割から7割)
- 中学校の教職10年目研修受講者では、「育てたい資質や能力を意識して指導している①」、「よい点や進歩の状況をとらえて本人に伝えている⑥」と回答している教員の割合が高い。

- 「単元途中で自己評価や相互評価を行う場面を設定している⑦」、「よい点や進歩の状況をとらえ本人に伝えている⑥」と回答している教員は、3～4割にとどまっている。また、「学びの状況に応じた展開や指導をしている④」は、小学校では約5割、中学校では約3割である。さらに、「児童生徒の取組やよい点を保護者に伝えている⑨」は、小学校では約2割、中学校では1割にも満たない。

・評価に関する取組が行われるようになってきてはいるが、まだ十分に組み立てていない教員も多い。よい点や進歩の状況等を児童生徒が自覚し、よりよい学習につなげていくことができるよう、保護者への情報提供も含め、評価の工夫や適切な指導について充実させていくことが課題である。

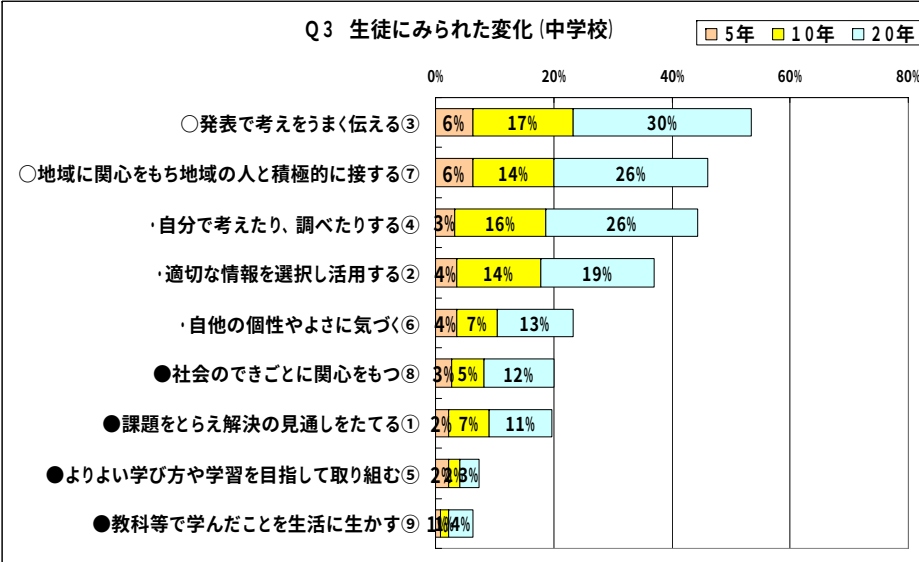
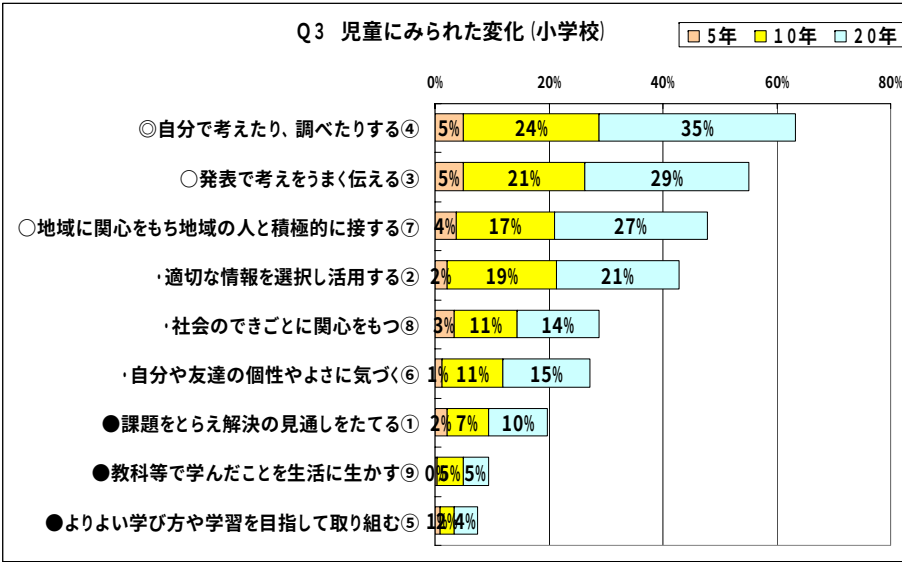
- 「各教科との関連に配慮して指導している②」、「他の教員と協力しながら指導している⑧」については、校種の違いによる差が大きく、小学校では約6割だが、中学校では約3割である。中学校における教科・教員間の連携の難しさがうかがえる。

3 児童生徒にみられた変化

自分で調べたり考えたりすることや、考えをうまく伝えることができるようになってきている。
 学んだことを生活に生かしたり学習を発展させたりすることは十分ではない。

約5割の教員が、「報告や発表などで考えをうまく伝えられるようになった」と答えている。「自分で考
 へたり調べたりする」、「地域への関心や地域の人への接し方」も多い。一方、「よりよい学び方や学習を目指
 して取り組む」、「教科等で学んだことを生活に生かす」については1割に満たない。

Q3 「総合的な学習の時間」を実施する以前と比べて、児童生徒には、どのような変化がありましたか。(複数回答)



Q3 小学校	教職経験										*指導のやりがい(Q1)別									
	5年	10年	20年	計	5年	10年	20年	計	肯定	否定	計*	肯定	否定	計*	肯定	否定	計*	肯定	否定	計*
Q3 児童生徒にみられる変化(小学校)	5年	10年	20年	計	5年	10年	20年	計	肯定	否定	計*	肯定	否定	計*	肯定	否定	計*	肯定	否定	計*
4 ◎自分で考えたり、調べたりする④	5%	24%	35%	63%	12	58	84	154	49%	10%	59%	118	25	143						
3 ○発表で考えをうまく伝える③	5%	21%	29%	55%	12	52	70	134	42%	10%	52%	103	24	127						
7 ○地域に関心をもち地域の人と積極的に接する⑦	4%	17%	27%	48%	9	42	65	116	36%	8%	44%	87	19	106						
2 ・適切な情報を選択し活用する②	2%	19%	21%	43%	5	47	52	104	31%	10%	41%	76	24	100						
8 ・社会のできごとに関心をもつ⑧	3%	11%	14%	29%	8	27	35	70	23%	4%	27%	56	10	66						
6 ・自分や友達の個性やよさに気づく⑥	1%	11%	15%	27%	3	26	37	66	19%	6%	25%	45	15	60						
1 ●課題をとらえ解決の見通しをたてる①	2%	7%	10%	20%	5	18	25	48	17%	2%	19%	41	5	46						
9 ●教科等で学んだことを生活に生かす⑨	0%	5%	5%	9%	1	11	11	23	7%	1%	8%	17	2	19						
5 ●よりよい学び方や学習を目指して取り組む⑤	1%	2%	4%	7%	2	6	10	18	6%	0%	7%	15	1	16						
10 10その他	0%	2%	1%	3%	1	4	3	8	3%	0%	3%	7	1	8						
									79%	21%	100%	191	52	243						

Q3 中学校	教職経験										*指導のやりがい(Q1)別									
	5年	10年	20年	計	5年	10年	20年	計	肯定	否定	計*	肯定	否定	計*	肯定	否定	計*	肯定	否定	計*
Q3 児童生徒の変化(中学校)	5年	10年	20年	計	5年	10年	20年	計	肯定	否定	計*	肯定	否定	計*	肯定	否定	計*	肯定	否定	計*
3 ○発表で考えをうまく伝える③	6%	17%	30%	53%	14	37	66	117	30%	22%	52%	65	49	114						
7 ○地域に関心をもち地域の人と積極的に接する⑦	6%	14%	26%	46%	14	30	57	101	26%	20%	46%	57	44	101						
4 ・自分で考えたり、調べたりする④	3%	16%	26%	44%	7	34	56	97	27%	16%	44%	60	36	96						
2 ・適切な情報を選択し活用する②	4%	14%	19%	37%	8	31	42	81	21%	15%	36%	45	33	78						
6 ・自他の個性やよさに気づく⑥	4%	7%	13%	23%	8	15	28	51	17%	6%	23%	37	14	51						
8 ●社会のできごとに関心をもつ⑧	3%	5%	12%	20%	6	12	26	44	14%	5%	19%	31	11	42						
1 ●課題をとらえ解決の見通しをたてる①	2%	7%	11%	20%	5	15	23	43	14%	5%	19%	31	11	42						
5 ●よりよい学び方や学習を目指して取り組む⑤	2%	2%	3%	7%	5	4	7	16	5%	2%	7%	11	5	16						
9 ●教科等で学んだことを生活に生かす⑨	1%	1%	4%	6%	2	3	9	14	5%	0%	6%	12	1	13						
10 10その他	0%	1%	2%	3%	0	2	4	6	1%	2%	3%	2	4	6						
									55%	45%	100%	120	99	219						

Q3 児童生徒にみられた変化

○ 小・中学校ともに、回答が4割を超えたのは、「自分で考えたり調べたりする④」、「発表などで考えをうまく伝える③」、「地域に関心をもち地域の人と積極的に接する⑦」である。「適切な情報を選択し活用する②」も約4割の教員が回答している。

・調べて表現するという学習が行われており、そうした学習を通して、自分で考えたり調べたりする態度や、必要な情報を集めたり工夫して表現したりする力が身についてきているととらえている教員が多いものと思われる。また、地域に出て調査活動を行ったり施設等を訪問したりする中で、地域の人やものに学ぶ姿勢や態度が育ってきているととらえている教員も少なくない。

● 「課題をとらえ解決の見通しや計画を立てる①」は2割、「よりよい学び方や学習を目指して取り組む⑤」、「教科等で学んだことを生活に生かす⑨」は、それぞれ1割に満たない。学んだことや学び方を生活に生かしたり、学習を発展させたりすることを教員がとらえることが難しいこと、また、そうしたことが教員や児童生徒にあまり意識されないまま学習が行われていることなどが、理由として考えられる。

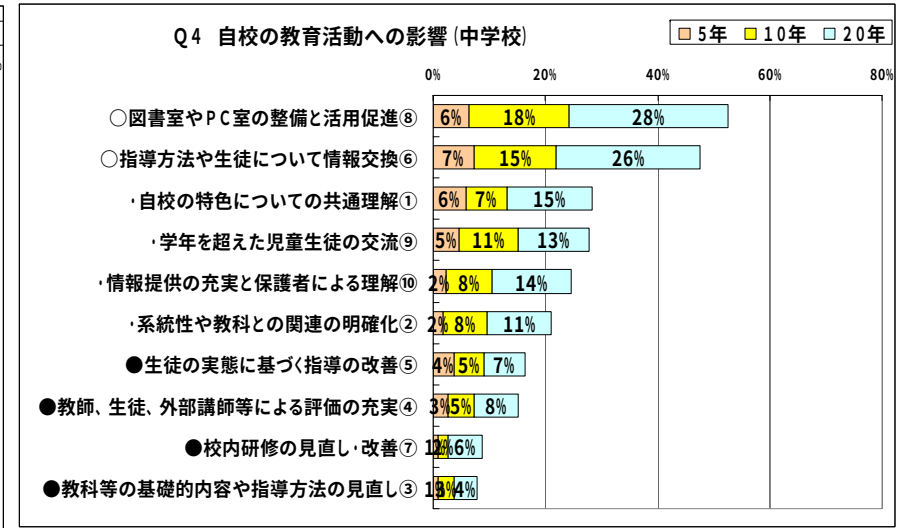
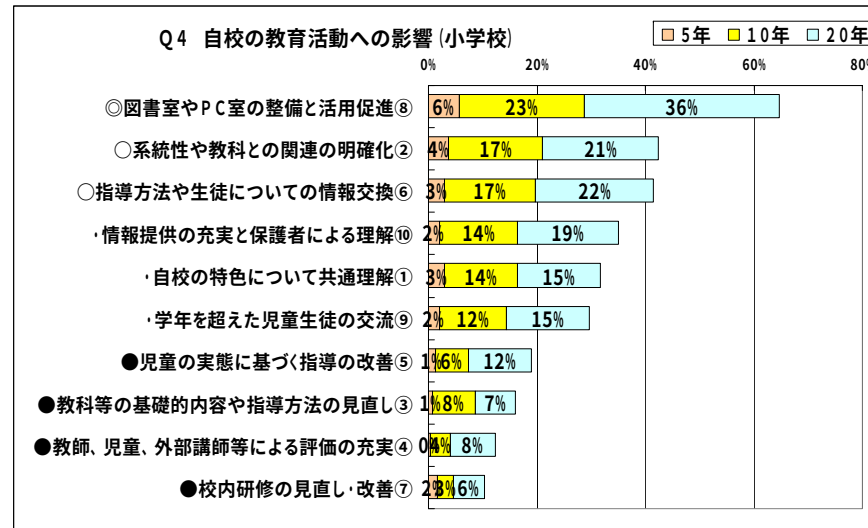
・総合的な学習の時間においては、主体的な学習態度の育成や、教科等で学んだことがその後の学習や生活に生きて働くようになることが大切である。そのような児童生徒の姿をとらえるのは難しいことではあるが、児童生徒自身が学習の見通しをもって主体的に取り組んだり、よりよい学び方や学習を目指したりしていけるよう、評価と指導の充実を図っていく必要がある。

4 本校の教育活動への影響

調べ学習を行うための校内環境が整備されてきた。
児童生徒の実態に基づく指導の充実や校内研修の改善には至っていない。

半数以上の教員が、「図書室やパソコン室等の整備が進み、活用されるようになった」と答えている。
「教師、児童生徒、外部講師等による評価の充実」「校内研修の見直し・改善」は、1割程度である。

Q4 あなたの学校では、「総合的な学習の時間」を実施することにより、学校の教育活動には、どのような影響がありましたか。（複数回答可）



Q4 小学校		教職経験別								※指導のやりがちなQ1別					
Q4本校の教育活動への影響(小学校)		5年		10年		20年		計		肯定		否定		計*	
8	○図書室やPC室の整備と活用促進⑧	6%	23%	36%	65%	14	56	87	157	47%	13%	60%	115	31	146
2	○系統性や教科との関連の明確化②	4%	17%	21%	42%	9	42	52	103	31%	8%	40%	76	20	96
6	○指導方法や生徒についての情報交換⑥	3%	17%	22%	42%	7	41	53	101	32%	7%	40%	78	18	96
10	・情報提供の充実と保護者による理解⑩	2%	14%	19%	35%	5	35	45	85	26%	6%	33%	64	15	79
1	・本校の特色について共通理解①	3%	14%	15%	32%	7	33	37	77	23%	7%	30%	56	17	73
9	・学年を超えた児童生徒の交流⑨	2%	12%	15%	30%	5	30	37	72	21%	6%	26%	50	14	64
5	●児童の実態に基づく指導の改善⑤	1%	6%	12%	19%	3	15	28	46	15%	3%	18%	36	7	43
3	●教科等の基礎的内容や指導方法の見直し③	1%	8%	7%	16%	2	19	18	39	12%	3%	14%	28	7	35
4	●教師、児童、外部講師等による評価の充実④	0%	4%	8%	12%	1	9	20	30	11%	1%	12%	27	2	29
7	●校内研修の見直し・改善⑦	2%	3%	6%	10%	4	7	14	25	8%	1%	9%	20	3	23
11	その他	0%	1%	1%	2%	0	2	3	5	2%	0%	2%	4	1	5

Q4	中学校	教職経験										*指導のやりがい(Q1)別					
		5年				10年				20年		計		肯定		否定	
8	Q4 本校の教育活動への影響 (中学校)	6%	18%	28%	53%	14	39	62	115	26%	25%	50%	56	54	110		
6	◎図書室やPC室の整備と活用促進⑧	7%	15%	26%	47%	16	32	56	104	30%	16%	47%	66	36	102		
6	○指導方法や生徒について情報交換⑥	7%	15%	26%	47%	16	32	56	104	30%	16%	47%	66	36	102		
1	・本校の特色についての共通理解①	6%	7%	15%	28%	13	16	33	62	19%	8%	27%	41	18	59		
9	・学年を超えた児童生徒の交流⑨	5%	11%	13%	28%	10	23	28	61	14%	12%	26%	30	26	56		
10	・情報提供の充実と保護者による理解⑩	2%	8%	14%	25%	5	18	31	54	16%	8%	25%	36	18	54		
2	・系統性や教科との関連の明確化②	2%	8%	11%	21%	4	17	25	46	13%	7%	20%	29	15	44		
5	●生徒の実態に基づく指導の改善⑤	4%	5%	7%	16%	8	12	16	36	11%	5%	16%	25	10	35		
3	●教師、生徒、外部講師等による評価の充実④	3%	5%	8%	15%	6	10	17	33	9%	6%	15%	19	13	32		
7	●校内研修の見直し・改善⑦	1%	2%	6%	9%	2	4	13	19	5%	4%	9%	11	9	20		
3	●教科等の基礎的内容や指導方法の見直し③	1%	3%	4%	8%	2	6	9	17	6%	1%	8%	14	3	17		
11	その他	0%	1%	2%	4%	1	3	5	9	1%	3%	4%	3	6	9		

Q4 自校の教育活動への影響

- 「図書室やパソコン室等の整備と活用促進⑧」が最も多く、小学校では6割を、中学校では5割を超える教員が回答している。「指導方法や児童生徒についての教員間の情報交換⑥」も4割を超えている。

・児童生徒が調べ学習を行うための校内における環境整備が進み、また、指導方法や児童生徒についての情報が教員間で共有されるようになってきている。

- 「教師、児童生徒、外部講師等による評価の充実④」、「児童生徒の実態に基づく指導の充実⑤」、「教科等の基礎的内容や指導方法の見直し③」、「校内研修の見直し・改善⑦」については、それぞれ2割に満たない。また、「学年の系統性や教科等との関連の明確化②」については、小学校が約4割、中学校では約2割である。

・総合的な学習の時間は、児童生徒や教職員の実態、保護者や地域との関係など、それぞれの学校の実情に応じて展開されるものである。自校の教育活動における「総合的な学習の時間」の位置づけや意味を再確認すること、児童生徒一人一人の学びの状況を見とりながら学習を組み立てていく力を高めていくことが課題と思われる。児童生徒の実態を適切に評価するとともに、各教科等の学習も含めた教育活動の充実・改善を目指して、学校全体として取り組んでいくことが大切である。